

# ロータリー、 来し方行く末

連載 第10回

## 日本のロータリアンの使命

国際ロータリー第2510地区

パストガバナー 塚原 房樹  
(札幌東RC)



アメリカにはフリーメーソンを筆頭に私的結社が数え切れないほど沢山あります。なぜアメリカには数多くのクラブが生まれたのでしょうか。アメリカは移民の国です。数多くの人種が集まったアメリカには、ヨーロッパとは違い、家柄はなく、異なる出自(生まれ、出身)の集まりで、ばらばらの個人主義者が集まった国です。そして社会的存在としての自分に居場所を与えるのが地域ごとの小集団である私的結社なのです。クラブに所属していることは、自分の身分を証明するためにも有効です。

ロータリーもライオンズも、そういう私的結社の代表的なものですが、ロータリーについて言えば、今日でもなおアメリカはクラブ数、会員数、何れにおいても突出した第一位のロータリー大国です。

従って、世界の200以上の国にロータリークラブは拡大しましたが、国際ロータリーのクラブ管理にはアメリカンスタンダードが色濃く表れています。

ロータリーは日本にとって外来思想です。ロータリーの背景にある思想は隣人愛・愛(アガペー)を説く中世キリスト教神学です。

ロータリーの綱領(目的)は万国共通の理念ですが、キリスト教と仏教では根底にある奉仕観に違いがあります。キリスト教も仏教も他の人々への愛を強調します。なぜ隣人を愛さなければならないのでしょうか。キリスト教は根源的なものとして神を立てます。その上でさらに、神は愛を以て人間を作られたので、自分と同じく神の愛によって作られた隣人たちを愛してゆかねばならないということを強調します。仏教はこれに対して「無我」こそが、存在の根本であると考えます。ところで無我といえれば一見、全く自己は存在しないというように虚無的に理解されがちです。

しかし決してそうではありません。無我を肯定的な言葉で言いかえれば「自他不二」「人類は皆平等」といえます。

人間の幸福を欲望の充足に求めるアメリカと、欲望からの解脱に求める東洋との大きな宗教意識の差がここにあります。現実の生活においては、たしかに西欧物質文明が一応理にかなっています。然しそれで人間が幸福になれるものではありません。殊に今や人類全体の存亡に関わる様な問題にまでなってしまった地球環境を考えれば究極的に何れの道を重しとするか、誰でも解ることだと思えます。

こうして思考の糸をたぐってゆくと、ロータリーの使命を日本人が職業倫理に求め、アメリカのRI本部が財団拡充に求めるという意識の違いが明瞭になります。やはりライオンズ的な道が西欧流思考にかなってい

る様で、そのためRIは結局ライオンズ化して行くのでしょう。

然しそれがどうあろうと、私達はロータリー本来の哲学を失ってはなりません。「決議23-34」の真骨頂を示す人生論を、今ここに述べた東西宗教文明の差にあてはめて書き直せば、「ロータリーとは、万人の幸福を求めるとあって、欲望の充足と欲望からの解放という、相反する二つの道の間にかかる争いを和解させようとする人生哲学である」ということになるでしょう。

そしてこれを解く鍵が正に古典的職業奉仕論にあるのです。ロータリーが精神文化であり、倫理運動であり、人間育成の道場だとするならば、輝かしい古典的職業奉仕の理想に花咲かせることの出来る風土は、今や日本しかないと思われます。平和運動としても二十一世紀のロータリーはインド以東の多神教文明に学ぶ必要があります。RIでは、職業奉仕は死語となりましたが、日本のロータリーは東洋哲学の布教者としてロータリーに新生面を開きましょう。

日本のロータリアンが東洋的美意識をもって事のすべてに対処することです。それが日本の目標、「美しい国」を作る道にも通ずるのです。